

令和 8 年熊本地震 派遣職員帰任報告

令和 8 年 9 月 29 日
秋田県総合防災課

令和 8 年熊本地震に係る応急対策職員の派遣概要

1. 期 間 令和 8 年 8 月 9 日（日）～ 令和 8 年 9 月 1 9 日（土）

2. 派遣先 熊本県上益城郡嘉島町

3. 応援職員の派遣概要

クール	従事期間（移動日含む）	派遣人数	うち県職員	うち市町村職員
第 1	8/9(日)～8/16(日)	4 名	4 名	なし
第 2	8/15(土)～8/23(日)	4 名	1 名	3 名（秋田市、大館市、由利本荘市）
第 3	8/22(土)～8/30(日)	3 名	3 名	なし
第 4	8/29(土)～9/6(日)	3 名	なし	3 名（秋田市、八郎潟町、美郷町）
第 5	9/5(土)～9/13(日)	3 名	3 名	なし
第 6	9/12(土)～9/19(土)	3 名	なし	3 名（能代市、男鹿市、湯沢市）
合計		2 0 名	1 1 名	9 名

4. 業務内容 住家被害認定調査及び罹災証明書発行に係る支援業務

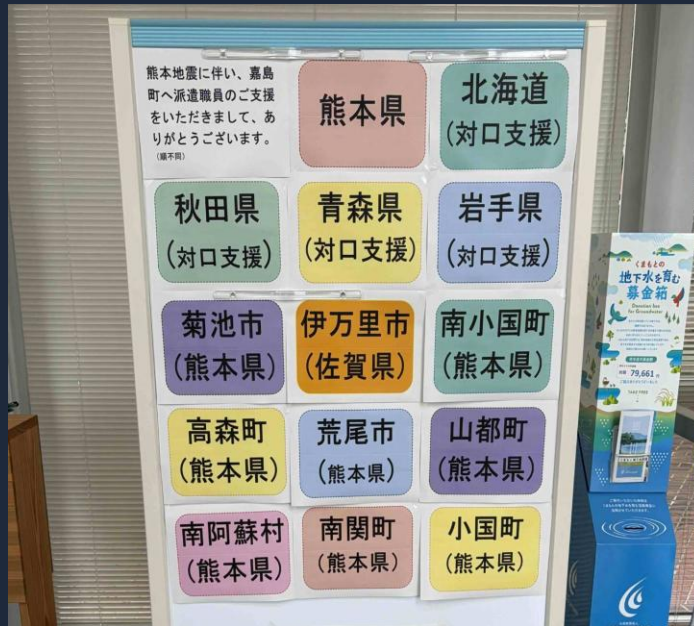
嘉島町長へのあいさつ



嘉島町、北海道、青森県、岩手県との打ち合わせ



嘉島町への職員派遣団体



住家被害認定調査に係る嘉島町・4道県共同研修

座学研修



実地研修（OJT）



住家被害認定調査の様子



次のクールへの引継ぎの様子



嘉島町災害対策本部会議での情報収集



罹災証明書発行支援

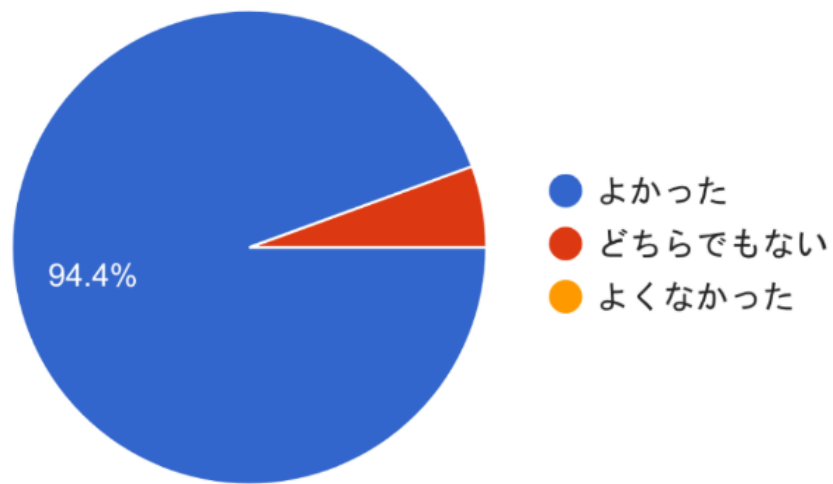


応援派遣職員への差し入れ



派遣職員アンケート結果抜粋（1/2）

【被災地派遣に参加してよかったですか】 回答：18件



【コメント】

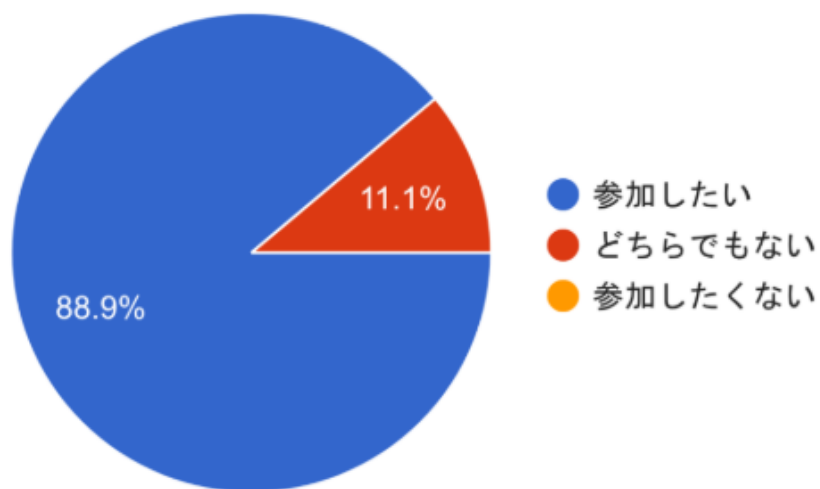
- ・ 現地の復旧作業が少しずつでも前進していく過程に携わり、自身の業務が役立っていることを肌で感じられた。
- ・ 限られた情報やリソースの中で優先順位を冷静に判断し、関係団体と連携して業務を進める難しさと重要性を身をもって学ぶことができました。
- ・ 災害対応業務の大変さややりがいを実感できた。被災者や自治体職員の話聞き、自身の防災意識も高まった。
- ・ 被災地住民の生の声を聞けたこと、盛夏時の避難所対策など現在不足している防災対策を感じることができた。
- ・ 実際に自市町村でも災害があった際にどのような動きをするのか勉強になりました。

【被災地派遣に参加してみた率直な感想等】

- ・ このような派遣に参加したのは初めてだったため、すべての経験が新たな気づきのきっかけとなりました。あらゆる経験を本市の業務と照らし合わせ、不足していることは積極的に取り入れていきたいです。
- ・ 被災家屋の2次調査は、高い集中力を長時間持続しなければならず、精神的疲労が大きかったため、派遣期間は一週間が限界と感じました。
- ・ 今回、初めて被災地支援の業務に従事し、被災地での実務など、様々な経験を積むことができた。また、実際に被災地を訪れたことで、今回の地震の影響の大きさを実感した。他にも、現地の自治体職員や他の自治体からの派遣職員との交流など、今回の派遣を通して、普段とは異なる経験もすることができ、良い機会になった。
- ・ 現地の職員自身も被災している住民であったり、被災はなくても通常業務＋災害対応で疲弊している職員と一緒に仕事をするので、業務にあたる姿勢は大事だと思っています。
- ・ 当県は災害も少ないため、地震による被災地の現状を実際に見ることができ、大変勉強になった。実際に自分の家屋が被災して住めなくなった場合は、どこに身を寄せてどう再建すればいいのかわからないので、公助の意義と自助共助による備えの大切さを再認識できた。

派遣職員アンケート結果抜粋（2/2）

【今後、被災地派遣の要請があった場合、参加しようと思いますか】 回答：18件



【コメント】

- ・秋田県内でも地震や大雨等災害対応に必要なスキルであるため、通常業務に支障をきたさない範囲で参加したい。
- ・同じクールで参加した2名の方とも関係を築くことができましたのでとても有意義でした。
- ・過酷な環境下でも地域のために尽力する嘉島町職員の姿に触れ、公共に奉仕するという原点や使命感を改めて強く認識できた。
- ・災害対応における応援職員の必要性（災害対応にあたる人数）を改めて認識した。所属自治体の災害対応力を向上させるという意味でも、今後も災害地派遣に参加したい。
- ・様々な現場を経験することにより、自分の自治体に不足していることに気づくことができるため参加したい。
- ・家庭の状況に余裕があれば参加したいと思う。

【現地で経験した業務において、今後の被災地支援業務の参考となる情報】

- ・猛暑の中での業務だったため、空調服が大変助かりました。
- ・都道府県単位で班を編成し業務にあたるのであれば、引継ぎや連絡方法などの面で、県・市町村職員混合の班の方がスムーズにできたのではないかと思います。また、引き継いだ業務をこなすだけでなく、自分が被災地の職員（住民）だったと考えながらの業務対応を心掛けました。
- ・今回の派遣で県庁と職員間でGWSを活用、有効に機能したが第4班が市町村職員だけになり連絡に活用できなくなった。グループに1人でも県職員がいるシフトができれば有効に機能すると感じた。
- ・初めて住家被害認定調査に従事する場合は、スキルの高い他の応援職員から効率的な調査方法を共有してもらうなど積極的に交流することが大切だと感じた。
- ・家屋調査は、経験がなければ口頭の引継ぎだけでは難しいだろうと思う。引継ぎの日に前任者と一緒に1軒経験できたため、翌日からスムーズに対応できた。
- ・派遣されている他自治体職員とは、食事会を開ければ親睦も深まり、その後の業務においてもスムーズになるので、余裕があれば実施した方がいい。また、他自治体職員の方とも積極的に会話していくことで雰囲気良くなり、お互いに体調などを気に掛けることで、皆が体調不良もなく頑張れたと思う。
- ・ホテル～職場～食事の往復だけでは気が滅入るので、毎日早起きして散歩するなどして、気持ちのリフレッシュを図った。